

令和6年度・学校経営の改革方針

鈴鹿市立庄内小学校

1. めざす学校像

【鈴峰中校区統一キャッチコピー】

地域とともにたくましくチャレンジする鈴峰の子

【学校教育目標】 ゆりのき児童の育成

夢をもち、理想に向かって、伸びやかに、毅然と進む、ゆりのきっ子の育成

【めざす学校像】 いきいきと学べる学校

- ・児童にとって、学ぶことや友だちといることが楽しい「通いたくなる学校」
- ・保護者・地域にとって、安心して子どもを任せられる「通わせたい学校」
- ・教職員にとって、働きがいを感じられる「勤めたい学校」

【めざす子ども像】 知・徳・体のバランスのとれた ゆりのきっ子

- ゆ 夢に向かって努力する子（徳）
- り 理想を追い、生きる力を身につけた子（知）
- の 伸びやかに育つ子（体：自分や他の人の生命、健康、安全を大切にする子）
- き 毅然と進む子（徳：社会や人との繋がりを大切にしたい思いやりのある子）

2. 基本方針

（１）地域連携と学校評価を生かした開かれた学校経営の推進 【地域連携】

（２）「ゆりのきっ子」の育成

- （ゆ）→ 夢に向かって自己肯定感を高めながら意欲的に活動する子の育成
（出前授業、キャリア教育の推進、学級・縦割り班活動の充実）【地域連携】【非認知能力】
- （り）→ （研修部）確かな学力と基本的生活習慣を身につけた子の育成
【学力向上と ICT 活用】
 - ・研修主題：自分の考えをもち、進んで伝え合う子の育成
～相手意識・目的意識を持った主体的な伝え合いをめざして（国語科）～
 - ・ICT の効果的な活用を取り入れた授業改善
- （の）→ （生指部）健全な体と心の育成（保健・生活・安全安心の指導などの推進）【長欠対策】
 - ・生徒指導目標：児童が安心して安全に楽しく過ごせる学校集団をめざす
- （き）→ （人権・特別支援教育部）社会や人との繋がりを大切にしたい思いやりのある子の育成（人権教育・特別支援教育、道徳教育の推進）【長欠対策】【非認知能力】
 - ・人権教育目標：一人ひとり違いを認め合い、互いを大切にしたい仲間づくり

（３）職場環境の改善，教職員の総勤務時間縮減に向けた取組の推進

3. 具体的な方策

(1) 地域連携と学校評価を生かした開かれた学校経営の推進

- ・ 学校運営協議会を中心に「子どもが楽しく安心して学べる環境づくり」など、地域と連携した学校経営を行い、地域とともにある学校づくりを推進する。
(学校運営協議会年6回、地域代表者会年10回参加、まちづくり協議会との随時相談)
- ・ 保護者アンケート、児童アンケートの分析結果や対策、それらについての学校運営協議会の意見等を地域・保護者に発信し取組のねらい等について理解を求めていく。
「学校は懇談会や通信などで教育方針や教育活動・児童の様子を分かりやすく伝えていますか」の肯定的回答率90%を目指す。

(2) 「ゆりのきっ子」の育成

○ 夢に向かって自己肯定感を高めながら意欲的に活動する子の育成

- ・ 出前授業や特色ある地域と協働した学習を取り入れたキャリア教育に取り組む。
- ・ 地域コーディネーターを中心に、学習ボランティアと連携し、地域人材をいかした学習の開発に取り組む。
- ・ 学級活動や縦割り班活動を通して、一人ひとりがいきいきと活動できる場を計画し、ともに活動を創り上げることの喜びや達成感を味わわせていく。
- ・ 互いの良いところを褒め合う「ポジティブカード」の取組を通して、自分や相手にポジティブな感情をもたせ、自己肯定感を高める。

○ 確かな学力と基本的生活習慣を身につけた子の育成

- ・ 「全国学調」「みえスタ」より分析した弱み克服のために学 Viva セットや過去問などを整備し「いきいきタイム」で活用することで、基礎学力と応用力の定着を図る。
- ・ 「学習や読書の時間が短く、スクリーンタイムが長い」という課題解決のために、朝読の時間の充実、ICTを活用した家庭学習の内容の充実に取り組む。鈴峰中学校区の家庭学習強化週間などの共通取組を通して、鈴峰中学校区内各小中学校との連携を図りながら、(15分×学年)の学習時間の定着に取り組む(達成率80%を目指す)。
- ・ 相手や目的を意識させ、相手の考えの良さを取り入れるなどして、自分の思いや考えを書く活動に取り組む。また、日常的な学力向上の取組として、条件にあった文や根拠を書けるようになるために、日頃から日記などの書く活動に全校で取り組み、通信などによる作品紹介により文に親しむようにする。
- ・ コミュニケーション力の向上のために、一人ひとりが自分の考えを話すだけでなく、相手の考えをしっかりと聴く力を養うことで、相手意識・目的意識を持った主体的な伝え合いができるようにする。
- ・ ICTの効果的な活用を取り入れた授業改善に取り組む。

○ 健全な体と心の育成

- ・ 自分や他の人の生命、健康、安全を大切にする教育の推進を図り、自らを律し、いじめや差別を許さず、その解決に向けて行動できる子の育成と集団づくりに取り組む。
- ・ 報告や連絡の「タイミング」を大切にして、迅速に相談することで全職員が「見通し」をもって組織的に対応できるよう常に心掛ける。

- ・ 日頃から体を動かすことを意識させるために、月・金に朝のラジオ体操を行い、体操後には、体力テストの結果で弱いことが分かった「握力」をつける運動を行う。また、体育の授業では遊具を使ったサーキットトレーニングを全校で取り組む。休み時間には「ふれあいタイム」で縦割り班活動を行い、異学年で体をつかった活動を定期的に行う。

○ 社会や人との繋がりを大切にしたい思いやりのある子の育成

- ・ 人権教育、特別支援教育の視点を重視した教育活動の推進を図り、子ども一人ひとりの状況や課題を正しく理解し、子どものよさを引き出す取組を推進する。合理的配慮が必要な児童に対する指導については、専門機関と連携し学校全体で共通理解をもって対応する。
- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育の基本計画に基づいた教育の充実を図る。スクールカウンセラーと連携し適切な児童理解をすすめ、日常的に児童の様子や支援方法等の情報共有を行って、不登校を生まない体制づくりに全職員で取り組む。欠席児童への家庭連絡や家庭訪問は速やかに行うことを徹底し長期欠席者「0」を目指す。「学校で友だちと仲良くしている」「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 90%を目指す。
- ・ 地域のゲストティーチャーとのつながり、地域行事への参加などを通して、進んで学校や地域の活動に参加する態度を身に付けさせ、人とのつながりを大切に、思いやりのある子の育成を目指す。

(3) 職場環境の改善，教職員の総勤務時間縮減に向けた取組の推進

○ 職場環境の改善と日常的なメンタルヘルスへの配慮に取り組む

○ 服務規律の理解を進めると共に、総勤務時間の縮減に取り組む

- ・ 校長通信「チーム庄内」などを利用し職員会議や打ち合わせ等で、個人情報管理や体罰・セクハラ防止などの危機管理についての情報共有を常に図るようにする。校務分掌表と行事計画を見直して、月 80 時間を超える時間外労働者の延べ人数「0」を目指す。
- ・ 勤務時間の縮減に向けて
 定時退校日を月 2 日以上(第 2・4 水曜日)設定する。
 会議資料の事前配付や所要時間の明記により簡素化・効率化に努める。
 留守番電話の設置やノー残業ディの実施により、働き方改革を推進する。
- ・ ワークライフバランスを大切にしたい職場風土の形成を目指す。

成果指標

		R4	R5
・ 一人当たりの月平均時間外労働	→ 25 時間以下	(20.4	→ 19.6 時間)
・ 年 360 時間を超える時間外労働者数	→ 0 名を目指す	(0	→ 0 名)
・ 月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数	→ 0 名を目指す	(0	→ 0 名)
・ 一人当たりの年間休暇(年休・特休)取得日数	→ 20 日以上	(22.8	→ 21.9 日)

活動指標

		R3	R5
・ 設定した日の定時に退校できた職員の割合	→ 75 %以上	(66.5	→ 67.9 %)
・ 放課後開催で 60 分以内に終了した会議の割合	→ 60 %以上	(47	→ 50 %)